

東日本大震災の経験を今後に生かすために

新潟県医師会理事

吉田俊明

今回、当院が行った東日本大震災での支援について、思いつくままに振り返ってみたいと思います。当院の院長交代の直前に東日本大震災が発生しました。前院長を本部長に災害対策本部を設置し、新潟県および済生会本部と連絡を取りながら被災地支援、避難者支援を行いました。DMATおよび医療救護班の派遣は県の要請に基いて実施し、救援物質の提供は済生会本部を通して実施しました。また、避難者支援として自主避難者を対象に無料診療を行いました。これは社会福祉法人の義務である無料・低額診療事業に準拠したものです（ある地方自治体職員から、無料診療は療担規則違反ではないかとの問い合わせを受けた時には、世間の社会福祉法人についての認知度が低いことに驚きました）。

当院のDMATは結成されたばかりで、研修・講習が終了して間もなく東日本大震災が発生しました。そのため、県内のDMATから認知されているかどうか不確かな状況で活動が開始されました。またDMATとしての装備も不十分なままに送り出さざるを得なかったことは残念でありませんでした。

当院からの支援・派遣は新潟県と済生会本部の両方から要請されました。いずれに対しても十分な支援であったか？もう少し支援できたのではないかと自問しています。今後は、緊急支援の必要とされる事態が起こったら、県や済生会本部から要請される前に当院としての支援規模をなるべく早く決定し、それを院内外に広報すべきであろうと考えます。